

令和6年度 協働提案事業補助金テーマ

1	【テーマ】	【関係課】
	誰ひとり取り残さない防災の取り組み	危機管理課
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発災時には、地域の人々が集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に組織的に取り組むこと（共助）が必要であるが、高齢化や人口減少などにより、地域コミュニティの機能が低下し、地域のつながりが希薄化している ・ 特に、要配慮者（高齢者、障害者、女性、子ども、外国人、LGBTQ、など）に対しては、適切な支援・配慮等の実施が必要であるが、要配慮者への理解や具体的な支援方法等について広まっていない ・ また、大規模災害時等、避難生活が中長期化する場合には、行政・地域住民のほか、ボランティア・NPO団体等が連携して支援を行う必要があることから、平常時における各種団体等との連携体制構築や防災に関する取り組みを推進していく必要がある 	
【目指す状態（実現したい状態）】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民やボランティア・NPO団体等が行政と協働して実施する啓発活動（啓発冊子・動画作成、啓発イベントの実施など）により、災害時における要配慮者に対する支援・配慮等の必要性について、地域住民が理解している状態 ・ 地域住民の防災意識が高まり、防災の取り組みが継続・発展する状態 ・ 防災の取り組みを通して、多様な立場・背景を持つ人が交流し、互いに認め合える地域となっている状態 		
2	【テーマ】	【関係課】
	子育て世代と取り組む地域防災	危機管理課
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における防災講話や防災訓練は休日に実施されることもあるものの、小さい子供がいる世帯などは参加しづらい状況。また、共働き世帯も多く、平日の取り組みも参加が困難である ・ 地域の防災の取り組み参加する機会が少ないため、市の考える防災対策などが浸透せず、子育て世代の視点が反映されにくい 	
【目指す状態（実現したい状態）】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会及びコミュニティ協議会等のほか、各種ボランティア・NPO団体等においても、子どもや親を巻き込んだ防災の取り組みが展開されている状態 ・ 市内において「防災キャンプ」「防災フェスタ」「防災カフェ」など、親子で楽しめる取り組みが展開されている状態 ・ 各家庭において、災害に対する基本的な知識を持ち、必要な備えができている状態 ・ 子育て世代に防災知識が普及することで、親同士のコミュニティ等を生かし、発災後に正しい情報や支援の輪が自然に広がる状態 		
3	【テーマ】	【関係課】
	瀬戸内市営バスの認知度向上による新規利用者の増加	企画振興課
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数は年々増加傾向にあるものの、固定客が多い ・ 市が発行する公共交通マップや市営バス時刻表では市営バス路線沿線の飲食店や店舗の情報が得られない 	
【目指す状態（実現したい状態）】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの方が、様々な用途で市営バスを利用している状態（買い物、通院、観光など） ・ 地域に市営バスというインフラが根付いている状態 ・ 市営バスを利用したことがない人でも、市営バスを利用してみたいと感じている状態 ・ 市営バスの新規利用者の増加を促すような、魅力的な交通マップがある状態 		

4	【テーマ】	【関係課】
	県立邑久高等学校の魅力向上による地方創生	企画振興課
	【解決したい課題・現状】	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 邑久高校は市内唯一の高等学校であり、将来の地域を担う人材育成の拠点としてその存在は欠かせないものであるが、少子化の影響等により募集定員は減少している。また、市内中学校の卒業生の岡山市内の高等学校等を志願する傾向が高まっており、邑久高校への進学者は1～3割程度となっている ・ 高校生をはじめとした子ども達は将来の瀬戸内市を担う人材であるが、大学等への進学、就職・結婚に伴い県内外に転出する人が多くなっている 	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 邑久高校の魅力が向上し、在校生・卒業生にとっての誇りとなり、市内のみならず近隣市町から多くの中学生に選ばれる高校となっている状態 ・ 邑久高生が郷土を知り、地元に着（郷土愛）を持ち、将来「瀬戸内市で暮らしたい」、「瀬戸内市とつながってほしい」と思う「人づくり」ができてきている状態 ・ 地域と高校生をつなぐ場とコーディネーターが存在する状態 	
6	【テーマ】	【関係課】
	海ごみの排出抑制のための啓発活動	生活環境課
	【解決したい課題・現状】	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海ごみの多くは陸で発生したごみで、川や水路等を経由して海に流れ込んでいる。水路等に入ってしまった後では回収困難なため、水路等に入る前に止める必要がある ・ 海ごみ対策は海岸等でのごみ拾い等という認識の人が多く、自分ごととして考えにくい面がある。自分ごとと認識してもらい行動変容を促していく必要がある 	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海ごみについて知ってもらうことで、各々が自分ごとと考えて行動変容につながるような学びの機会がある状態。 ・ 継続的で効果的な啓発活動を行っていけるように、官民で連携しながら取り組んでいける仕組みが構築されている状態 ・ ごみが水路等を通して海に出ないように、各々がごみを適正に処理するとともに、ごみ拾い等が地域で行われている状態 	
6	【テーマ】	【関係課】
	孤独死・孤立死を防ぐためのコミュニティの場づくり	いきいき長寿課
	【解決したい課題・現状】	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単身高齢者が増えたため、近所づきあい等が少ない高齢者は突然死しても、しばらく気づいてもらえない ・ セーフティネットの構築については、郵便配達員や配食サービス事業者、移動スーパー等との見守りに関する協定等で実施をしているが、どうしてもセーフティネットから漏れる人が出ている ・ 一人暮らしや高齢者世帯について、民生委員等が見守り活動をしてきているが、地域ぐるみで見守る仕組みがない ・ コロナ禍で、互いの家に集まるなど高齢者同士の交流の機会が減っている 	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独死、孤立死した人の遺族の交流会や、孤独死を防ぐための勉強会等の場づくりが行われ、それを企画運営できる団体が存在する状態。さらに勉強会の参加者や企画運営する団体が地域に戻った際、以下の状態につながるような地域を支える人材が育成されている状態 ・ セーフティネットや地域の交流・支え合いから漏れる人がなくなり、孤独死・孤立死が起らない状態 ・ 毎日高齢者が気軽に集い、語らうことができる居場所を作り、相互に確認できる体制を作ることにより、既存のセーフティネットと合わせて、異変への気づきが強化された状態（この仕組みで見守り全て賄うのではなく、セーフティネットの1つとして補完する状態） ・ 集会所や公共施設だけでなく、様々な手法・場所で高齢者の交流が行われている状態 ・ 既存の市の事業とは違うものが定期的に行われている状態 	

7	【テーマ】	【関係課】
	こども・子育て世帯が楽しむ、「こどもまんなか」の取り組み	こども家庭課
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> 市は「子育て楽しむならせとうち」として様々な子育て施策を行いつつ、「こどもまんなか応援サポーター」宣言を行った。しかし、子育て世帯から高い期待が寄せられている、市内に子連れで出かけやすく楽しめる公園や遊び場は依然として不足しており、大きな課題である 	
8	【目指す状態（実現したい状態）】	
	<ul style="list-style-type: none"> こどもをまんなか、外で遊ぶことを通じて人が集い「子育てを楽しむならせとうち」を実感できる状態 例えば、地域の空き地や児童遊園地、改修後の冒険の森や、瀬戸内市の豊かな自然環境を活用して、定期的に「こどもひろば」、「プレーパーク」、「森のようちえん」等のこども・若者・子育て世帯がやってみたい取り組みがある状態 	
	【テーマ】	【関係課】
	複数の民間事業者等が連携した、地域資源を活用した観光商品や特産品による地域消費の向上	文化観光課
9	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> 地域や民間事業者等の意見を踏まえた取組が不足しており、市民が観光のまちを実感しにくい 地域の観光資源を活用した観光商品が不足しており、観光客の周遊ができていない 観光客の滞在時間の延伸が図れ、地域消費を拡大させられる観光商品や特産品が不足している 	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者を中心に地域が連携し、にぎわいと活気のある観光のまちづくりに市民が参加している状態 豊かな自然や景観、歴史・文化等の地域資源を活用した、高い付加価値の感じられる観光商品を目的として観光客が周遊している状態 観光資源や特産品を活用した魅力ある食品や土産物等が、地域一帯で日常的に提供され地域消費の拡大に貢献している状態 	
9	【テーマ】	【関係課】
	図書館の実利用率※の向上 (※実利用率＝年間に1度でも貸出利用をした人の割合)	市民図書館
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> 市民図書館では、2016年6月の開館以来、順調に貸出冊数は増加しているが、実利用率が伸び悩んでいる(17%程度) 現在市民図書館では、郷土資料の展示や様々なワークショップを取り組んでいるが、実利用率の向上にあまり反映されていない 	
9	【目指す状態（実現したい状態）】	
	<ul style="list-style-type: none"> 市民の実利用率が20%以上の状態 老若男女を問わず、多くの市民が来館し、図書館を利用している状態 市民が来館し、参加したくなるようなイベントや利用したくなるようなメディア資料(デジタルアーカイブなど)のある状態 図書館に来館することが、図書の貸出につながるような啓発ができる状態 	